

2018年6月 (No.348)

主な内容とページ

半導体産業の再編、20年間で区切り	1
中堅でも生き残り策	2
20年間に及ぶ産業再編、仕上げか	6
問われる独立、専門経営	8
悪しき経験、失敗から脱却を	9
独立経営、独り立ちの時代	9
今後のわが国半導体産業の姿は	10
教訓活かせるかコネクテッド(SRL だより)	11

半導体産業の再編、20年間で区切り

90年代末に始まったわが国半導体産業の再編はトップ企業の東芝のメモリ事業分離で大きな節目を迎えた。

1. 東芝がメモリ事業を売却、これによってわが国半導体産業は欧米と同様に大手系列から独立、専門企業が中心になる構造に移行する。
2. 90年代末に始まったわが国半導体メーカーの統合、再編は、東芝のメモリ分離が一つの区切りになる。再編は、これで終結か、それとも続行か、ともに可能性がある。
3. 半導体産業の再編はすでに20年におよび、多大なエネルギーを費やすとともに世界シェアをはじめとして多くのものを失った。流れを変え、実りある今後が望まれる。

教訓活かせるかコネクテッド

日本の半導体産業が弱体化した要因の一つはソフトウェア、ネットワークへの対応。TV、VTR、初期のパソコンや携帯電話では強かったが、それは個別、単体として利用された時期。広く接続、あるいは多様なソフトを使うネットワーク時代に入って規格や仕組みで海外に主導権が移り、関連した半導体でも対応が揺らいだ。

「日本の技術が危ない」(ファイナン、フライ共書、94年日本経済新聞)など日本の危機を指摘する向きは少なくなかったが、今に至るまで日本側の変化なし。同じことが今の自動車分野のコネクテッドでもみられる。もちろん勝負はこれからだが、日本は、技術力に欠け、世界規格を主導する実績、能力も欠ける。

車では半導体の轍を踏まないでもらいたい、希望もある。既に半導体での大失敗の経験があるし、車関連ではトップに海外人材を充てる例もみられる。それから常識にとらわれない度肝を抜くような例えばスマホカーなど日系メーカーから登場するかもしれない。負けが当たり前ではなく、是非とも流れを変えたいものだ。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL(半導体総合研究所)ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL(半導体総合研究所)の解釈と分析で表現したものです。

2018年 著作権所有 SRL(半導体総合研究所)

SRL Monthly Report

2018年6月(毎月1回発行)第29巻6号(通巻348号)

発行元:株式会社 SRL
〒188-0014 東京都西東京市芝久保町 3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹 修

SRL Monthly Report

June 2018, No.348

Semicon Research Ltd.
3-1-35 Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor Osamu Ohtake

© (株)SRL 2018

購読料金1年分(12号)98,000円(税別)